

なぜ大宮支社管内の不祥事が止まらない？

浦和や大宮と同様に、小山統括センターでも輸送サービス労組への不当労働行為が発生！

浦和、大宮統括センターでの不当労働行為同様に、池田新幹線統括本部長名で発出された「社員の皆さんへ」の周知が、6月7日付で小山統括センターにおいても企画 UT リーダー名で発信されています。

これまで大宮支社管内において、異動に関する意識付けのやり取りや管理者会議を含めた相次ぐ情報漏洩、漏洩した事実の隠蔽、社友会への社内資料の不適切な提供など、多くの不祥事や不当労働行為が立て続けに明らかになりました。

真摯に不祥事に向き合う事なく、沈黙を続けている JR 東日本の企業ガバナンスやコンプライアンスに対する意識は皆無であると言わざるを得ません。

グループ会社においても人件費の水増し請求が発覚し、社会やお客さま、そして社員に対しても信用を失墜させてしまう事態となりました。

騙し取ろうと思わなければ発生しなかった企業犯罪であり、会社経営陣が何も知らなかったと思いますか？そして、バレなければ何をやっても構わないという企業風土で「四方良し」の経営が実現できるのでしょうか？

JR 東日本のグループレポート（統合報告書）では、『果敢なチャレンジを促進する内部統制』の目標に「法令遵守と企業倫理に従った事業運営、情報セキュリティの確保」と記載されています。

『コンプライアンスの重要性の理解』や『業務に潜むリスクへの対応力の強化』に向けて、「コンプライアンス全社員教育」、「管理者向けのコンプライアンス研修」、「経営幹部向けのコンプライアンスセミナー」を実施しています。また、不適切事象の未然防止や早期発見に向けて取り組みを行っているとも記載されていますが、今の大宮支社の現状を見れば、経営陣や管理者に浸透されているとは到底思えません。

**企業ガバナンスの強化や企業倫理が向上しなければ
社員のエンゲージメントは向上しない！
不適切事象を未然に防止する力を養うため、
大宮支社は実行力のある教育を行うべきだ！**